



淫魔にこぼれられた幼馴染

〜再会したら

サキユバスにされていた〜

合計・42P

けもけもハウス

北の森最深部
廃墟の古城

「……」か

サキユバスの
拠点ってのは



ここにティファ
が攫われた
ってか

ねえ何で
サキユバスが
女を攫うのさ

だが
サキユバスの
城には――



知らねえよ

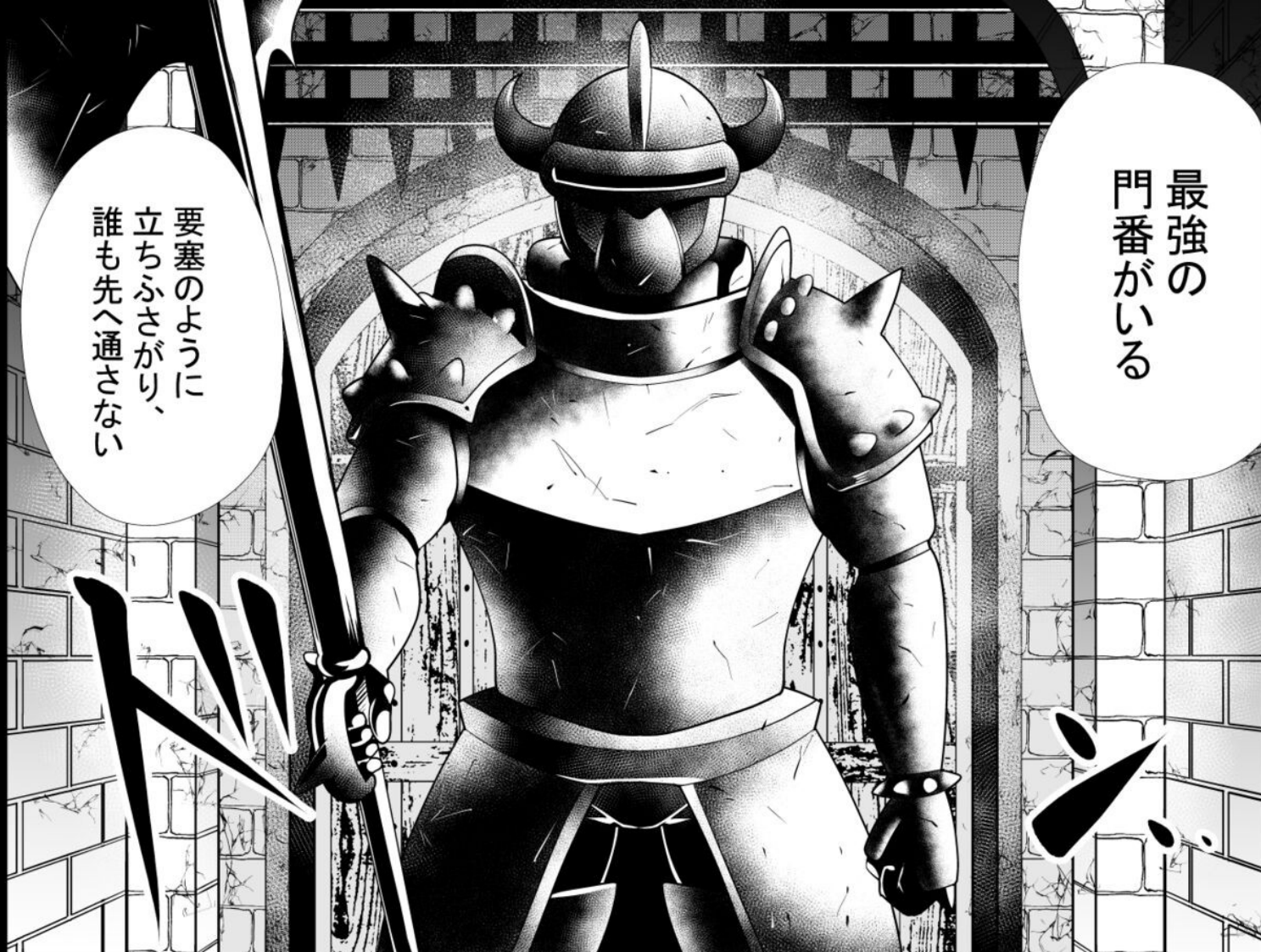
サキユバスの群に
ティファを見たって
ヤツがいた

共通の友人の
証言だからな
確度は高え



最強の
門番がいる

要塞のように
立ちふさがり、
誰も先へ通さない



：ココカラ
先ハ
通サヌ

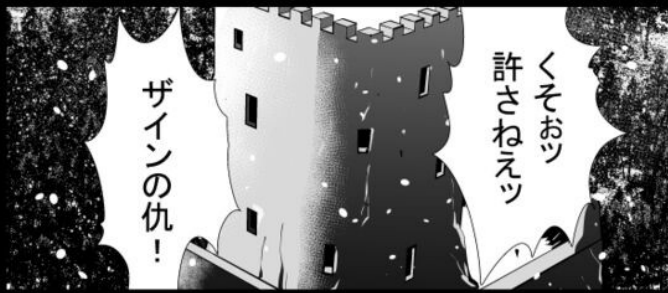
去ラレヨ



ティファああッ

俺は
一筋縄じゃ
いかんぜ…







アゼル様
お外が騒がしくて
集中できませんわ♥

はああん♥♥

良いのか？
今死んだのは
お前の許婚だぞ

息の合った
睦ましいコンビ
だったではないか
ティファ

覚えて
なあい♥

はっ



はっは
時は残酷な
ものだ(笑)

あっ♥
あっ♥

あっ♥

それにしても
ライラ

お前の男は
有能だな



ふふ♥
マルク
強いでしょ♥

カラ...

今のところ
不敗
ではないか

はあ

あっ

たむ

あ

たむ♥





10年前

え？
サキュバスが
出た？

マルクス・
ゴッドフリート
(下積み時代)



そう、この街の
近くの川に
現れたんだって

だから暫く
ひとりで
出歩かないで

もじ

ライラ・ラベル



今朝ギルドで
冒険者の人たちが
言ってたのよ

そんな情報
どこで？



おい、見ろよ
サキユバスが
出たんだとよ

ええっ
マジでか

討伐報酬
一万銀貨

うひよおお
たまらねええ
場所も近くじゃねえか

よっしゃ
俺一番乗り!!
こいつは俺が倒す

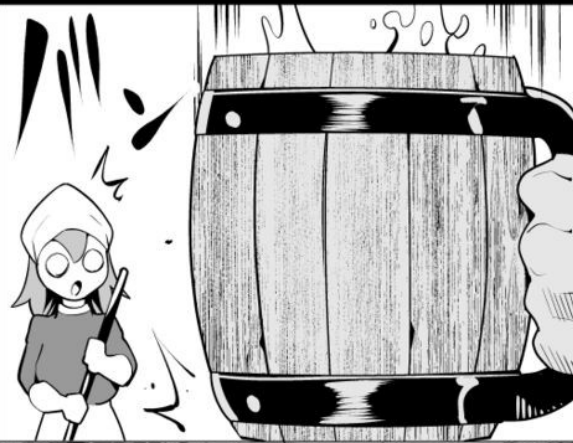
ばーか、
お前の短小じゃ
かすり傷も
負わせられんぞ

何だと、
てめっww

やーね、男つたら
気持ち悪いったりや
ありやしない

ライラちゃんは
あんま見ちゃ
駄目よ

は、はあ





ああ？
何だてめ

見慣れねえ
顔だな



やめとけ
サキユバス討伐に
行くなッ

男は
家に帰って
家族を守れ



サキユバスには
関わるな...

ろくなことには
ならねえ...



うん
だから気を付けて
ほしいの

へえーそんな
ことがあったのか



ほっとけ
ただの酔っ払いだ

朝から
酒飲んで
立たねえんだろ
息子に嫉妬
してんなよ



サキユバス...
気になるな

もー！
本当に心配
なんだよ！

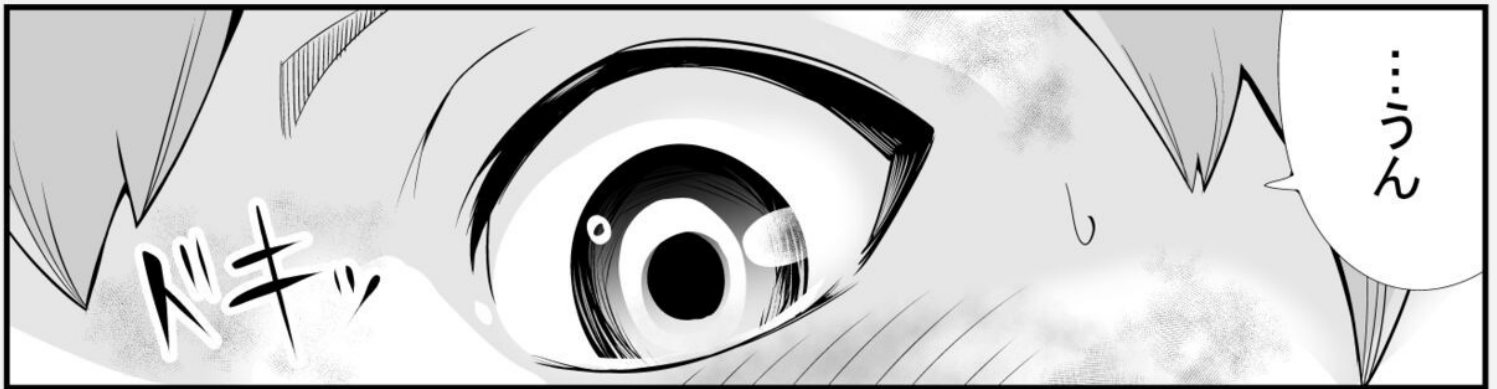


早く
帰ってきてね



分かった

今晩は
なるべく一緒に
いよう



...うん

キキッ

し

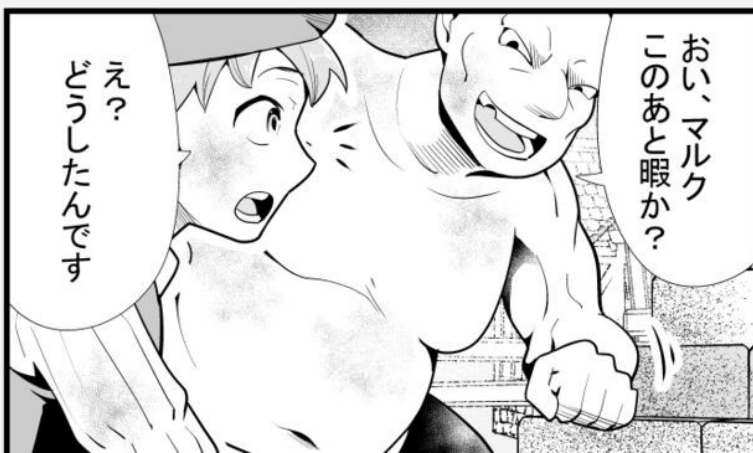


おい、レンガくれー
石灰
足んねえぞ
こっちこっち



トントントントント

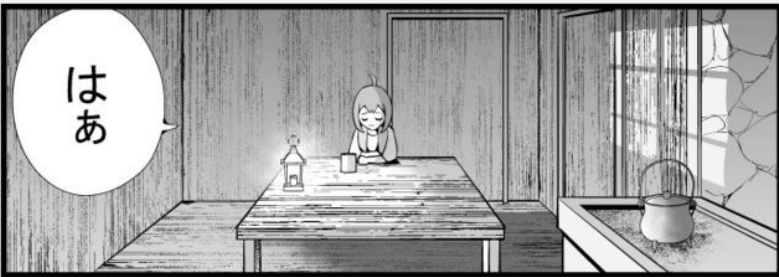
ザッザッ

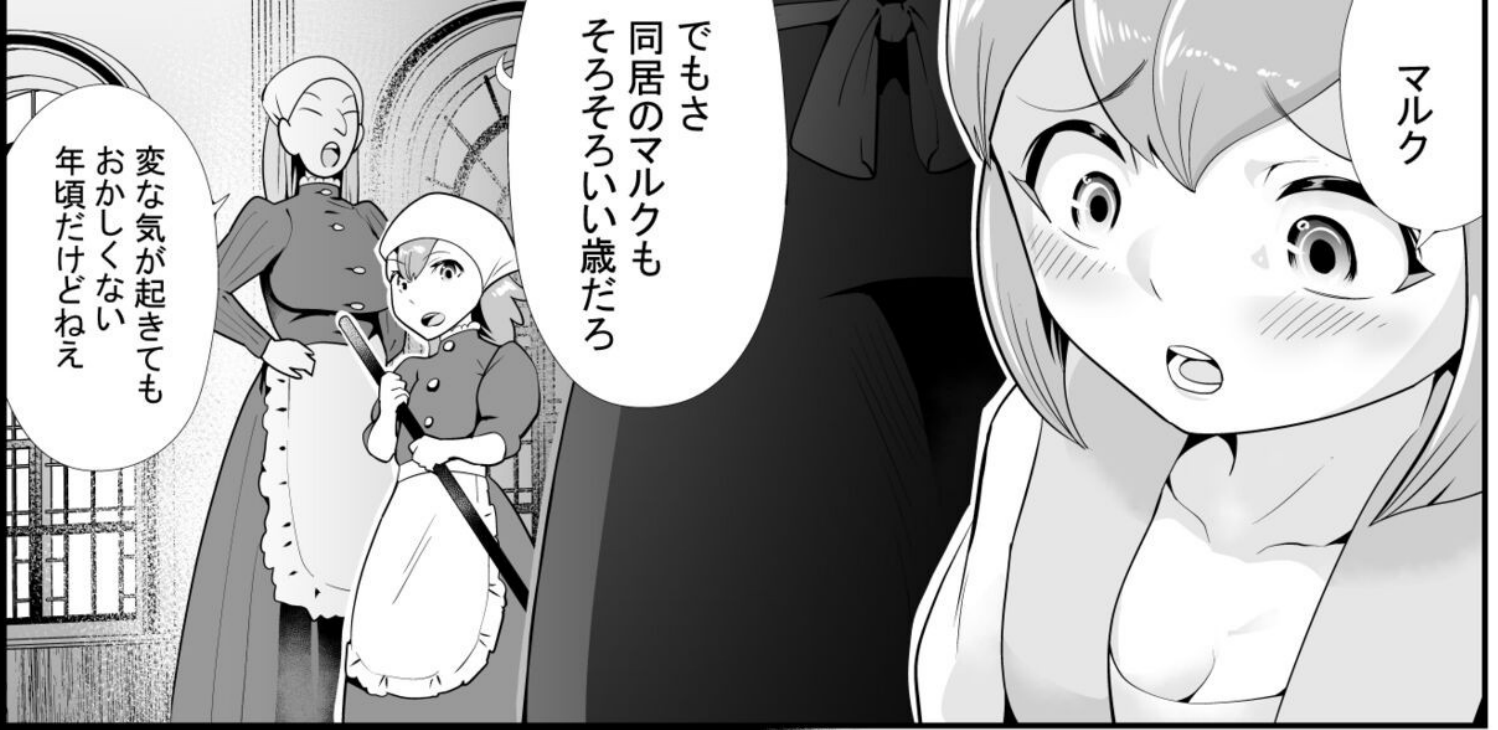


おい、マルク
このあとと暇か?

え？
どうしたんです







マルク

でもさ
同居のマルクも
そろそろいい歳だろ

変な気が起きてても
おかしくない
年頃だけどねえ



わっわたしたちは
そんなんじゃない
ありません！
本当にただの
同居人です！

あらあら
ムキになって

ライラちゃん
かわいい



キラッ



でもね
ライラがそうでも
マルクはどうかしら

グズグズしてると
他の女に
目移りしたりして…♪

ツン



女の裸に
興味があるなら

わたしが
いつだって

ヒキ
ヒキ



こんばんは
お嬢さん





幼い少女が
こんなところで

一人暮らし
かい？

えらく
不用心だね



私の名は
アゼル

君の主だ



なら彼が
帰るまでの間

愉しもうじゃ
ないか



あ、主
私はマルクと
一緒に
住んでいて

へえ、まだ
帰らないのかい？

アゼル



君のような
可憐な少女を

悦ばせるだけ
なんだから



や、止めて
ください

衛兵の人に
いいつけますよ

衛兵だって
許してくれるさ



君はただ

喜びを知るといい



大丈夫

か、からだか
しびれひえ…



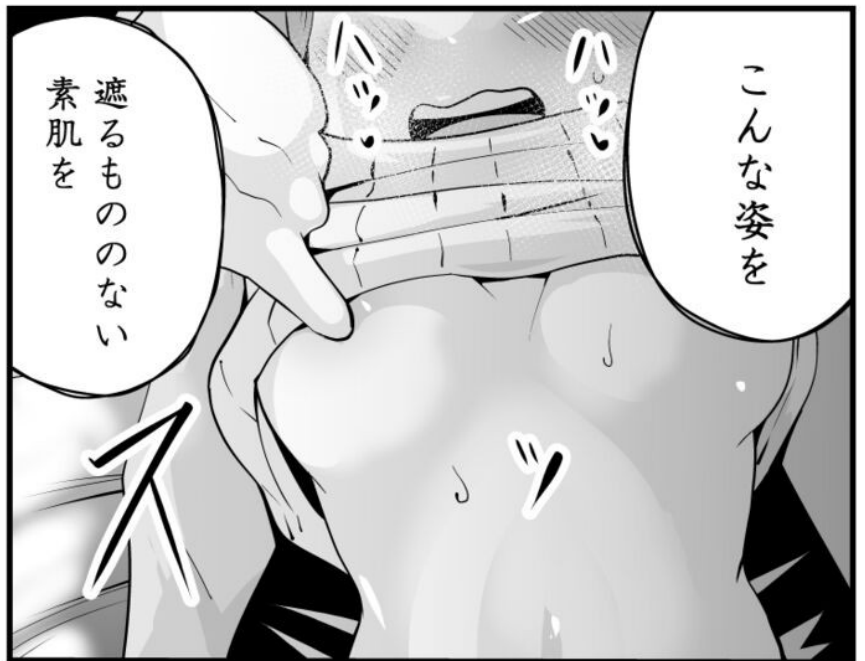
いい匂いだ…

身体は男を
求めているのに、
まだ男を
知らない香り

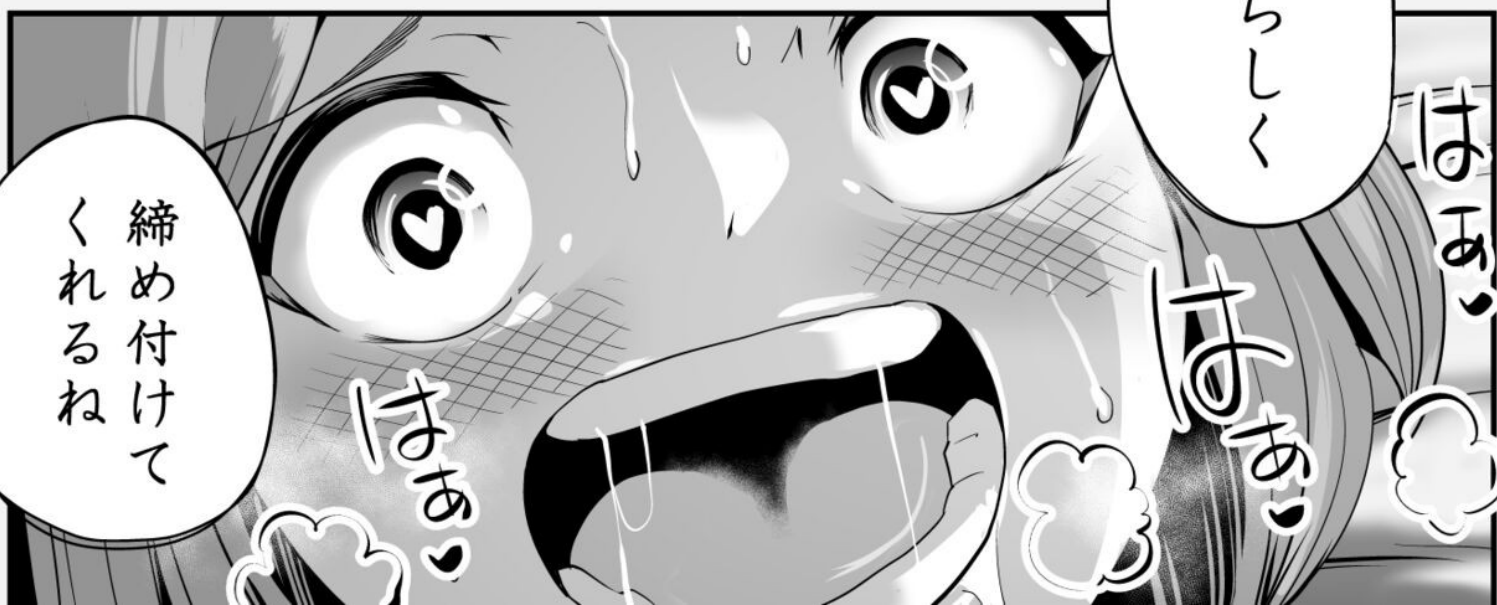


しかし遅いな
君が求めている
その男

今頃サキュバスに
抱かれているんじや
ないか…？









まだイってるな？
俺のモノになって
満足したか

「これは
違うの…」



私は…
私は…
私は……

だめえ、
腰が
動いちやう…



遠慮せず
味わえ…

ジュンジュン…

腰が…腰が
止められない



すじゅ…
すじゅよお…

頭の中が
真っ白に
なっちやう…





ああっ♡

びくっ

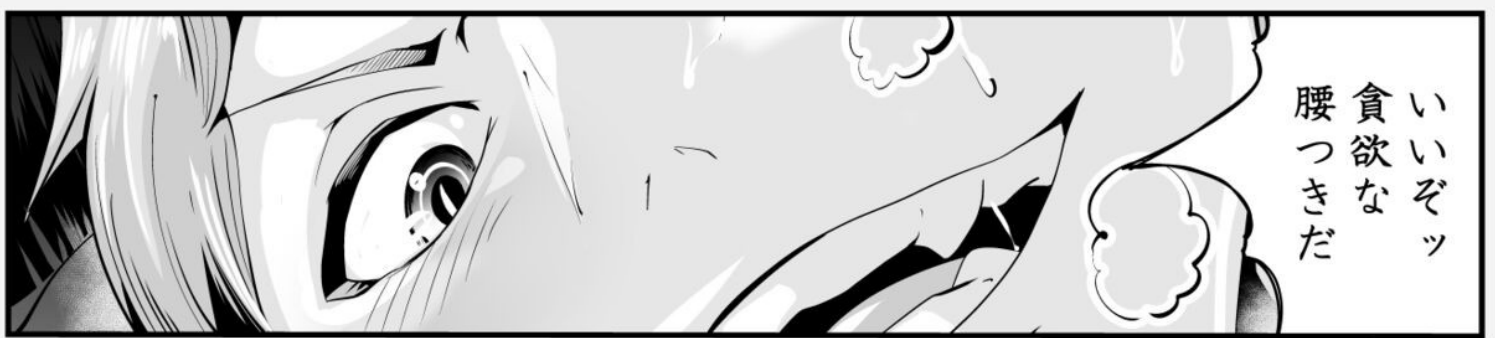
はっ♡

はっ♡

もっとお♡
もっと奥う♡

びくっ

ぐっ♡



いいぞッ
貪欲な
腰つきだ



いやらしい
娘だ…

その歳で
よく濡れる…

わ、わたし、
そうだったんだ…♡



気持ちいい♡

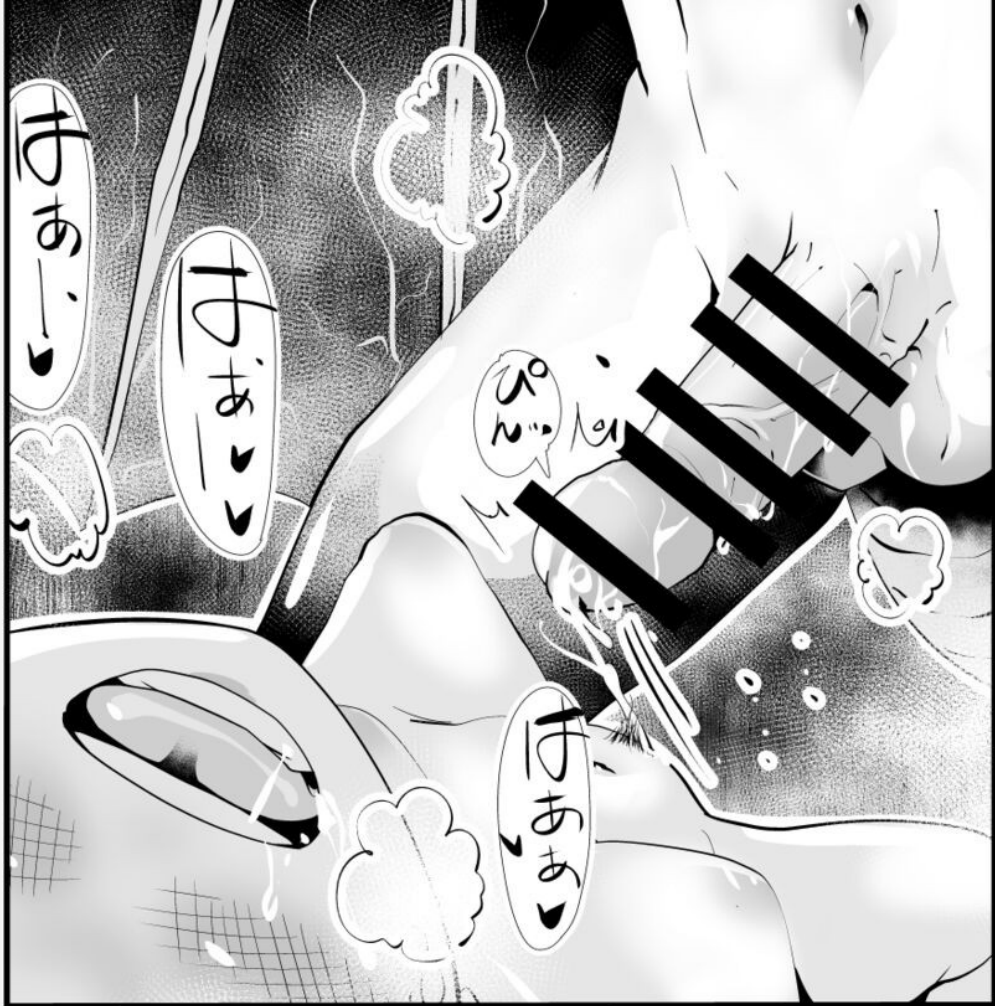
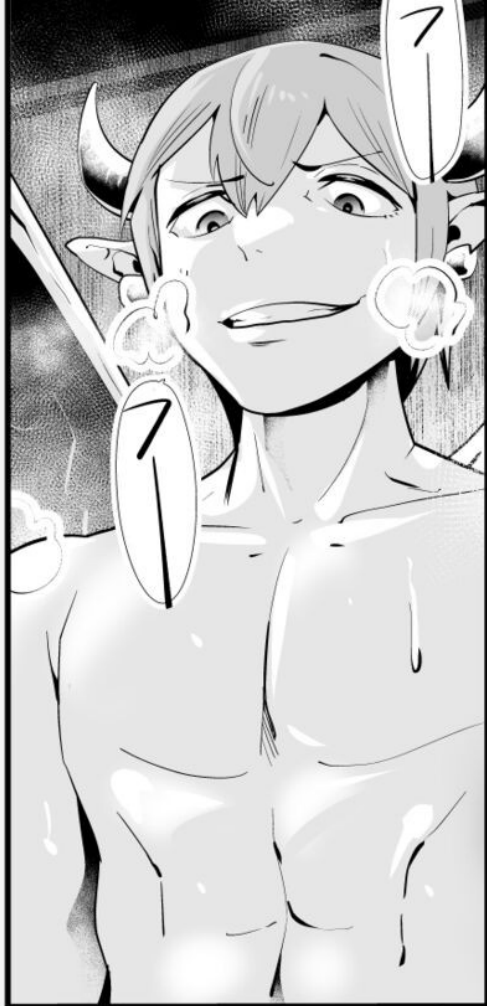
こんなの知らない♡
こんな世界が
あったなんて♡♡

はっ♡

種を
くれてやる！

喜んで
飲み干せッ







もう少年じゃないですよ
ギルド長



まだ少年さ

それで
手がかりは?



マルクス・
ゴッドフリート
(職業: 剣士)

ああ、北の森の
開拓民から得た
情報だが

この森は女性が
よく神隠しに
会うらしい



ほう

霧も濃く
野獣も多い
危険な場所だ

ただ森の奥に
何者かの城が
みつかった



そのあたりでライラと
思わしき女性が
目撃されたらしい

ここか…

迷路みたいな
森だった

まさか
こんな奥地に
城があったとは

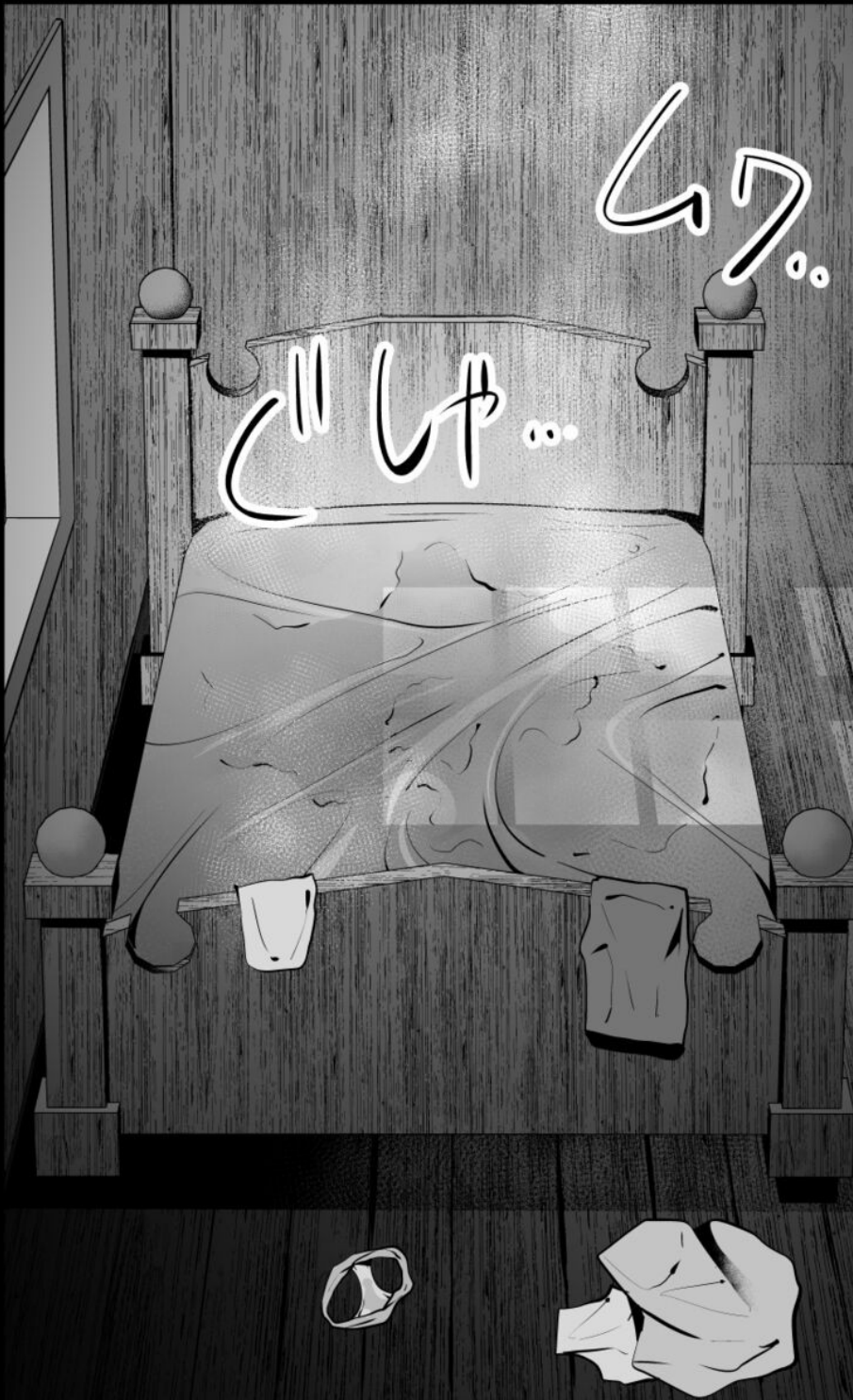


8年前

なんだよ、
サキユバスは
逃げたってさ
骨折り損の
くたびれ儲け
だぜ

マルク
送って行って
やるよ

すみません



ライラが
どこにも
いねえぞツ

人さらいか!!

でも争った
形跡がねえ

寝室以外…

まさか他の
男と…?

うん。

ま、マルク!!

う、うそだ

あのライラが…!?

そんなはずは!!

うん。



ようこそ

よく
辿り着いたね

この城へ

ム

ク
あ♡



ライラ覚えていたか？
お前が抱かれたかった
男だぞ

あや
あや♡



森には獣がうじゃうじゃ
相当の手練れでなければ
ここへは辿り着けぬ

そこそこ
優秀な
雄のようだ

わく
わく



さあ、
ライラ
帰ろう！



お前が
親玉か

ライラ…

あや♡



すーっの…♡

こんなに
気持ちいいことが
あつたなんて
知らなかった…♡

ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ

ねえ見て
マルク
♡♡♡

子種を
注がれるのが
癖になっちゃった♡

あっ♡
あっ…♡

ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ

いつも欲しくて
たまらないの…♡
私変わっちゃった♡

もう
あなたの知ってる
私じゃないの

えっちにしか
興味がなくて
他の事はもう
どうでもいいの…♡

今も奥まで
届いてる…
凄いなだよ…

私アゼルさまとするたび
どんだんえっちに
なっちゃっ♡♡♡

ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ

ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ

ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ



ライラを
返してやる



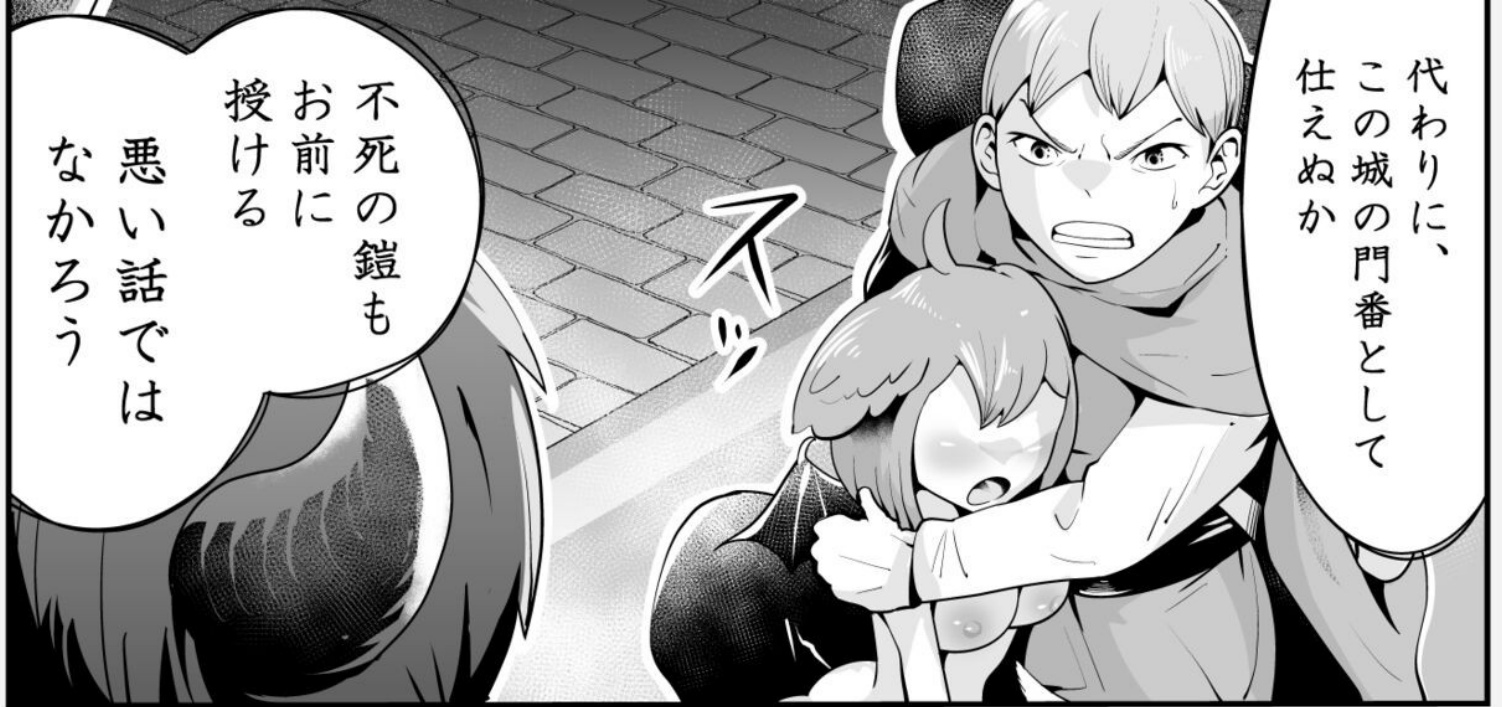
ライラッ!



え...!?



カッ



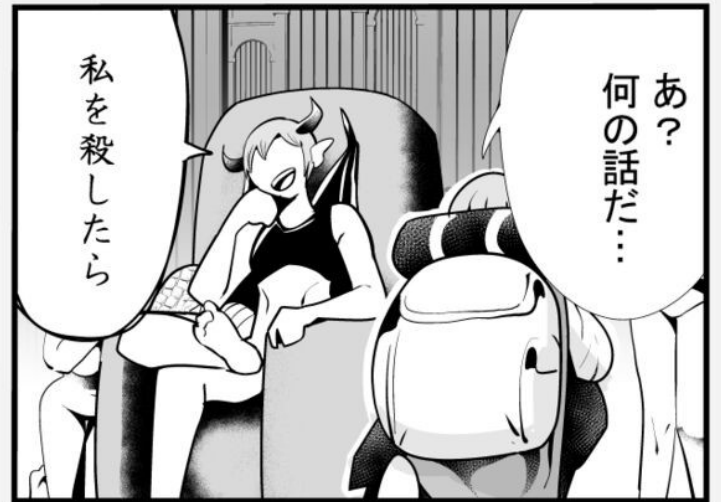
代わりに、
この城の門番として
仕えぬか

不死の鎧も
お前に
授ける
悪い話では
なからう



ライラ
今夜は
この男に
抱かれる

許す



私を殺したら

あ？
何の話だ…



ライラは生涯
サキュバスの
ままだ

いやらしく
どすけべ
のまま
そこらじゅうの
男を
誘惑し続けるぞ？



身体が疼くの…
いますぐ
おちんちんが
欲しい…

ライラ!?



あぁっ♡

すごい♡
太い♡
硬い♡

ニヤッ♡
ちや♡

ちや♡

うぐぐぐ



無骨ウゝ

あゝ

あゝ

あゝ



ねえマルク…

そんなに成長したのにこの体格差の私に欲情してるんだ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ



ねえ…あの頃のままなのが良いの？

あなたも私も変わっちゃったのね…

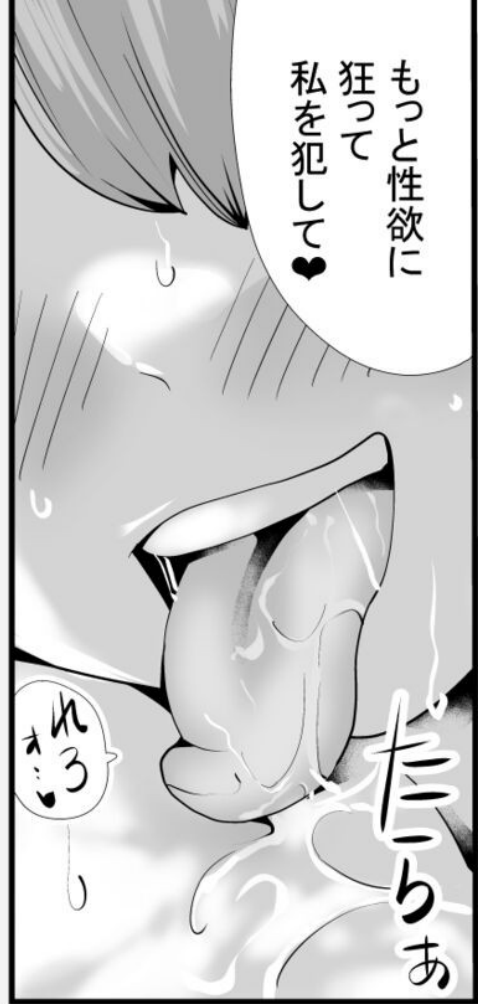
あっ♡
また硬くなった

ちや♡
ちや♡

だめだめえ♥
ぜんっぜんダメえ
♥♥♥

私に
翻弄されないで？

もっと性欲に
狂って
私を犯して♥



私
めちやくちやに
されたいの♥

我慢できないの♥
えっちしたくて
たまらないの♥

私を満足させて
我を忘れさせて♥



アゼル様は
初めてのときから
たっぷりと深く
探ってくれたの♥

お陰で私も
知らない自分に
出会っっちゃった♥

こんなに
シたかったなんて
経験するまで
知らなかった♥

ねえ♥ねえ♥
もっとシたいよね♥
私をたっぷり
味わって♥



SEXのない
生活なんて
忘れちゃった…

全身で密着して
お互いのことだけ
考えて絶頂するの…好き♡



あれえ
いつちやった？

…私まだなのに
気絶しちゃった

美味しかったけど
物足りないや

頑張って
門番してね

そして今度また、
えっちしようね♡

じゃあ、
しかたないね

私アゼル様と
えっちの
続きしてくる…

もっと
えっちしたくて
やっぱり我慢
できないの…

はあはあ
はあ…

おい、
聞いたか

北の森で
S級パーティー
壊滅だとも

ザインの
パーティーか

マルクス以来の
S級だった
つてのに…

俺たちじゃ
手が出せねえ

愛する
人のため

俺は今日も
この城を
守っている

女の
ために

はっ♡

はあ♡

人類を裏切り
快樂に従い

たっ♡

たっ♡

はあ♡

サキユバスに
魅入られて
永遠に生き続ける

たっ♡